

# 聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール  
聖母の小さな学校  
2019年  
7月19日発行  
第205号1学期終業号

## 小さな歩みではあっても、 自分の足で歩むことの大切さ！

強い雨が降ったり止んだり、梅雨らしい季節になりました。平素は聖母の小さな学校の教育に、ひとかたならぬご協力をいただき、ありがとうございます。お陰様で本日、1学期の終業式を迎えることができました。1学期は、6名の通学生と5名の相談生の教育にあたりました。そのうち1名は6月から原籍校に戻り、そこでの活動の幅を徐々に広げております。この生徒が毎日聖母に定刻に登校できるようになったことも、原籍校に戻る力のひとつと言えます。小さなステップを大切に、個々の生徒の歩みを作っていきたいと思っております。

どの生徒もそうですが、朝起きて聖母に通う練習から始まります。今まで家から出にくかった生徒が、週に1回、30分通うことからはじめ、週4回の登校へと力を付け、30分が1時間になり、聖母の授業に出ることができたり、体験学習に参加できたりと、大きな行動の変化を見せております。と同時に、この繰り返しの中で、自分自身との対話が少しずつできるようになり、心の成長も垣間見られます。また、ある生徒は、日曜日に母と聖母の小さな学校の門まで来ました。今まで見られなかった行動です。家から一歩も出なかった子どもの大きな変化です。やはり私たち大人は、自分の考えや思いを少し横に置いて、子どもたちの示すこと（非常に微かに表れる事なので、つかむのが難しいですが）を注意深く捉えることが大切です。捉え、支えて、初めて自主性が育ちます。生徒ひとりひとり、親も子も、渾身の努力をした1学期でした。また、複数の生徒と保護者から、「やっと聖母への登校のリズムが生まれてきたので、夏休み中も登校日を設けて欲しい」という要望もありました。相談して、良い夏休みをしたいと思っております。

1学期の大きな行事としては、卒業生・現役生・教えて下さっている先生方、運営委員の方々等々、オール聖母ファミリーが集う五月祭がありました。当日の卒業生やOB保護者の姿を見て励まされた現役保護者、また、現役生たちも、「不登校になって、これで終わり」ではなく、高校も大学も行けるんだと励まされたようです。これは単に表面的なことではなく、「小さなステップ」を自分の足で丁寧に歩む時、心と行動のバランスがとれ、『本当の自分に出会い、新しい自分へと成長していく』ということがあり、自主的に進路を作っているのです。

7月22日（月）には、舞鶴市教育委員会の協力のもと、「サマーキャンプ：カヌー教室 in 和知」もあります。生徒の自立への一歩となることでしょうか。1学期、多くの先生方にお世話になりました。本当にありがとうございました。



4月 ハイキング



5月 調理実習



6月 華道教室